

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
雲仙市吾妻町	黒仁田地区	令和2年12月16日	平成31年3月28日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	49.2 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	36.3 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	14.0 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	7.7 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.2 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.0 ha

2 対象地区の課題

当地区は山間部の集落であり、農地も狭く傾斜もきつい。車の乗り入れも厳しいほ場が多くある。耕作放棄地も年々増え、そこにイノシシが住み着き、地区内の農地に被害を及ぼしている。農地の耕作条件が悪いため、農業を継ぐ人が少なく、地区内の農業後継者が育たない。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

当面は現在の中心経営体に農地を集積していくが、条件が悪い農地は中心経営体であっても引き受けが難しい。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の経営の意向			備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲	
個人	9経営体	—	26.3 ha	—	34.3 ha		

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は、64筆、49,833㎡となっている。
農地中間管理機構の活用方針 農地の貸し付けの際は、将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。 中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。
基盤整備への取組方針 将来担い手が農地を借り受けてくれるように、基盤整備の話を進めているが、農地中間管理事業関連整備事業の要件が厳しいため、推進が難しい。
鳥獣被害防止対策の取組方針 地区内には全体的にイノシシの防護柵を設置しており被害は食い止めているが、近年アナグマによるハウス栽培の被害が多く、有効な対策が見つからないため、今後関係機関の指導を仰ぎながら対策を検討していく。
その他 集落を3ブロック(上方、中方、下方)に分け、定期的に将来の農業・農地のついて話し合いを継続していく。